

各位

全4ページ
登録速報(2025-177)
2025年10月29日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り新規登録となりましたので、ご連絡します。
新規登録年月日：2025年10月29日

記

1. 農薬の種類及び名称

種類：ビスピリバックナトリウム塩液剤
名称：グラスショート液剤
登録番号：第24991号

2. 農薬の物理的・化学的性状

無色～淡黄色水溶性液体

3. 農薬の有効成分の種類及び含有濃度

2,6-ビス(4,6-ジメチルピリミジン-2-イルオキシ)安息香酸ナトリウム…………… 3.0%

4. 農薬のその他の成分の種類及び含有濃度（15に掲げる事項を除く。）

水、界面活性剤等…………… 97.0%

5. 農薬の適用病害虫の範囲、使用方法及び使用期限

作物名	適用場所	適用雑草名	使用目的	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	ビスピバ [®] ナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草 多年生雑草	草丈抑制 による 刈り取り軽減	雑草 生育初期 又は 草刈り後 10～20日の 雑草再生期 (ただし、 収穫前日 まで)	300～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 運動場 宅地等			雑草生育期 又は 刈取後	500～1000 mL/10a	通常散布 100～200 L/10a 少量散布 25～50 L/10a		植栽地を 除く樹木等 の周辺地に 雑草茎葉散布	

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	ビスピバ [®] ナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	イボクサ	生育期 (ただし、 収穫前日ま で)	300～500mL/10a	50～100 L/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 運動場 宅地等	クズ	生育期	500～1000mL/10a	100～200 L/10a		植栽地を 除く樹木等 の周辺地に 雑草茎葉散布	
林木	林地		生育初期 (5～6月)	つる径 使用量(mL/株) 2.0cm 以下 0.5 2.1～3.0cm 1.0 3.1～4.0cm 1.5 4.1～5.0cm 2.0 5.1cm以上 適宜増量	原液		つる注入処理	

使用期限：4年

6. 農薬の使用上の注意事項（8に掲げる事項を除く。）

- 1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 2) 散布前によく攪拌すること。
- 3) 沈殿が生じることがあるので、よく振ってから使用すること。
- 4) 展着剤の加用の必要はない。
- 5) 草丈抑制による刈り取り軽減目的で使用する場合、本剤の散布時期は、水田畦畔の雑草生育初期又は草刈り後10～20日（草丈10cm）程度、樹木等の雑草生育期又は刈取後（草丈30～50cm程度）であり、時期を失しないように散布すること。なお、ナガエツルノゲイトウは草丈30cmまでが散布適期である。
- 6) 雑草の生育期に薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるようにすること。また、雑草が大きくなりすぎると効果が低減するので時期を失しないように散布すること。
- 7) 公園、堤とう等において、体系で処理する場合、2回目の処理は1回目処理後、40～50日後に実施すること。
- 8) 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候を見極めてから散布すること。
- 9) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 10) 低温下では効果の発現が遅れることがある。
- 11) 雑草の種類によっては効果が変動する場合がある。
- 12) クズのつる注入処理をする場合には次のことに注意すること。
 - ①処理位置は、株元から50cm以内とし、刃物等で外皮を木質部が見える位に剥皮して、薬液が十分付着するように滴下すること。
 - ②株頭が大きく、複数のつるが出ているものは、すべてのつるに薬液を処理すること。
- 13) 水稻に直接かからないようにすること。
- 14) 幼穂形成期から乳熟期の水稻に飛散した場合、出穂、粳の品質に影響することがあるので、散布に当っては飛散防止ノズルを使用すること。
- 15) 水稻以外の作物及び有用植栽木の茎葉部へ薬液が飛散した場合、葉の黄化、落葉、枯死等の薬害が発生するので、田畑、果樹園等の周辺では流入、飛散に十分注意すること。
- 16) 少量散布は専用ノズルを使用すること。
- 17) 散布や調製に使用した器具・ホース等は水洗い、水通しをすること。
- 18) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ①水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
 - ②散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器等は、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 19) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

7. 人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法

(1) 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

ア 農薬使用者に係る注意事項

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをする。
- 3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- 4) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 5) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

(2) 使用に際して講ずべき被害防止方法

該当なし

8. 生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、養魚田周辺での使用には注意すること。

以上